

第 52 回応用物理学会北海道支部総会議事録

日時：平成 27 年 3 月 6 日（金） 14:00～15:30

場所：北海道大学 工学研究科 応用物理学専攻会議室（A3-62 室）

出席者（順不動、敬称略）：

西口 規彦（H26 支部長）、足立 智（会計監査）、橋詰 保（支部評議員）、篁 耕司（H26 旭川幹事）、桃野 直樹（H26 室蘭幹事）、菅原 智明（H26 函館幹事）、原田 康浩（H26 北見幹事）、梅村 信弘（H26 千歳幹事）、熊野 英和（H26 人材育成幹事）、友田 基信（H26 庶務幹事）、植村 哲也（H26 庶務幹事）、田中 之博（H26 会計幹事）、村上 尚史（H26 会計幹事）、長浜 太郎（H27 庶務幹事候補者）、江上 喜幸（H27 会計幹事候補者）、横井 直倫（H27 旭川幹事候補者）、古賀 貴亮（会員）、以上 17 名

※ 欠席者は全て「支部長に委任」

事務局：岩崎 美樹

議事録作成者：植村 哲也（H26 庶務幹事）

学術講演会受賞者表彰式

・総会開始前、第 50 回応用物理学会北海道支部／第 11 回日本光学会北海道地区合同学術講演会受賞者 5 名に対し表彰式を挙行し、賞状および記念メダルを授与した。

（敬称略）

澤田 淳（北大院情報科学）

川上 欣洋（北大院工学院）

出南 真吾（室蘭工大院工）

小野里 尚記（旭川高専専攻科生産システム工学専攻）

殷 翔（北大院情報科学）

議事録の確認・確定

・第 51 回応用物理学会北海道支部総会議事録が確認・確定された。

議題

1. 平成 26 年度事業報告ならびに決算報告について（資料 1-1、1-2）

事業報告：

・資料 1-1（4～11 ページ）に沿って、H26 の事業報告が庶務幹事・友田先生からなされ、全会一致で承認された。

決算報告：

・資料 1-2 (12 ページ) に沿って、H26 の決算報告、引き続いて、資料 1-3 (13 ページ) に沿って、H26 の貸借対照表の説明が会計幹事・田中先生よりなされ、全会一致で承認された。特筆すべき点として、今年度は、9 月に開催された秋の学術講演会の展示会収益交付金が支部に入金されたこと、および、特別引当資産からの受け入れを行わなかったことが報告された。

2. 平成 27 年度事業計画及び予算案について (資料 2-1、2-2)

事業計画：

・資料 2-1 (14 ページ) に沿って、友田先生より H27 の事業計画の報告がなされ、全会一致で承認された。

予算案：

・資料 2-2 (15 ページ) に沿って、田中先生より H27 の予算案の報告がなされ、全会一致で承認された。リフレッシュ理科教室の補助金は昨年度の 80 万円から 71 万円に減額されたが、北海道支部の予算でバックアップし、できるだけリフレッシュ理科教室の内容を減らさず、より充実させていくことが同意された。

3. 支部役員の改選について (資料 3)

・資料 3 (16 ページ) に沿って、新役員が紹介され、全会一致で承認された。

4. 第 51 回応用物理学会北海道支部学術講演会について (資料 4-1、4-2)

・資料 4-1 (17 ページ) に沿って、庶務幹事・植村より第 51 回応用物理学会北海道支部学術講演会の会場・日程案と準備状況の説明がなされた。日程が平成 28 年 1 月 9 日 (土) と 10 日 (日)、会場は北海道大学学術交流会館で調整中である。また、日本光学会が応用物理学会の分科会より独立したことに伴い、同学会との共催を今後どうするかに関し、日本光学会幹事の藤原先生と協議することとなった。

5. 今後の支部運営および支部予算について

・これまで、秋の学術講演会の展示会収益金の一部は特別引当資産として各支部に配分されてきたが、今後、開催地が各支部に均等化されなくなることに伴い、特別引当資産制度が廃止された。これに伴い、今後の支部運営や予算に関して各支部の要望や考えについて本部から意見聴取がもとめられており、そのための意見交換を行った。その結果、北海道支部としては、これまでの事業規模やアクティビティを維持するため、支部学術講演会の参加費の見直し等により予算確保に努める一方、本部から配分される支部予算のベースアップを本部に要望することとした。

報告事項

1. 50 周年記念行事の実施報告

人材育成幹事の熊野先生より、50 周年記念行事として支部学術講演会（@旭川）において開催したジュニアセッションに関する実施報告がなされた。本セッションでは道内の SSH（Super Science High school）校から選抜された高校生による 3 件の発表がなされ、活発な議論が交わされた。実施後、参加した高校側からも好意的な意見が寄せられたことから、今後も継続する方向で検討をしていくこととなった。まずは、札幌開催時の学術講演会で導入する方向で検討をはじめることとし、具体的な計画案は人材育成幹事と庶務幹事を中心に検討することとなった。

2. その他

- ・なし

以上